

令和3年度自己評価・年間反省

今年度も新型コロナウイルス感染症は収束せず、行事の縮小、中止が多くありました。しかし、前年度の反省や、コロナ渦でも出来ることを模索して新しい行事のあり方を探っていく中で、形を変えて実施することが出来た行事も多かったです。

昨年2月に新園舎に引っ越しをして、7月からは園庭も使用できるようになりました。朝夕の自由遊びに戸外で身体を動かして遊び、うんてい、鉄棒などに取り組んだり、友だち同士で鬼ごっこをするなど、伸び伸びと遊ぶ姿が見られました。小さいクラスの子どもたちも、それぞれの成長にあった遊具で、登る、くぐるなどの全身を使った遊びを楽しんだり、砂場でじっくりと遊ぶ姿が見られました。

環境が変わったことで子どもたちの動きが予測できず、ケガにつながったこともあったため、園舎の中や園庭で注意すべき場所や行動について職員間で周知共有するようにしました。新園舎で一年を過ごし、職員の動線、役割分担、日々の生活のルーティンも定まってきたことにより、新しい生活リズムや決まりが出来つつあります。

運動会は無観客で、子どもたちと職員だけで行い、その様子をDVDにして保護者の方々に配布して、子どもたちの成長をみていただきました。保護者の方に目の前で見ていただくことは出来なかったのですが、子どもたちは行事に向かって気持ちを高め、協力して一つのことに取り組む経験を通して、心も体も成長することが出来ました。

発表会は、人数制限はありましたが、保護者の方々に見ていただくことが出来、子どもたちもそれを励みに、さらなる成長を遂げていました。

感染症対策として、人数が集まる行事では一人ひとりの間隔を空けたり、消毒を徹底するなどの措置をとり、感染拡大期にはできるだけ少人数で過ごし、接触機会を減らすことなど、職員間でその都度話し合いを持ちながら、安全な保育が出来るように努めてきました。コロナ渦だからといって保育を諦めてしまうのではなく、どのようにすれば安全な中でも子どもたちの成長に必要な環境や機会を作っていけるのかを考え、工夫しながら進めてきました。

昨年度に続き、外部の研修に参加することはほぼ出来なかったのですが、リモート研修を利用したり、園内研修では6年間にわたって取り組んでいる運動遊びによる発達支援、虐待と子育て支援、和太鼓などの研修に講師を招き、職員の質向上を図るようにしました。

来年度からも全職員が意見を出し合い、連携をとりながらよりよい保育を行っていくようにしていきたいと思っています。